

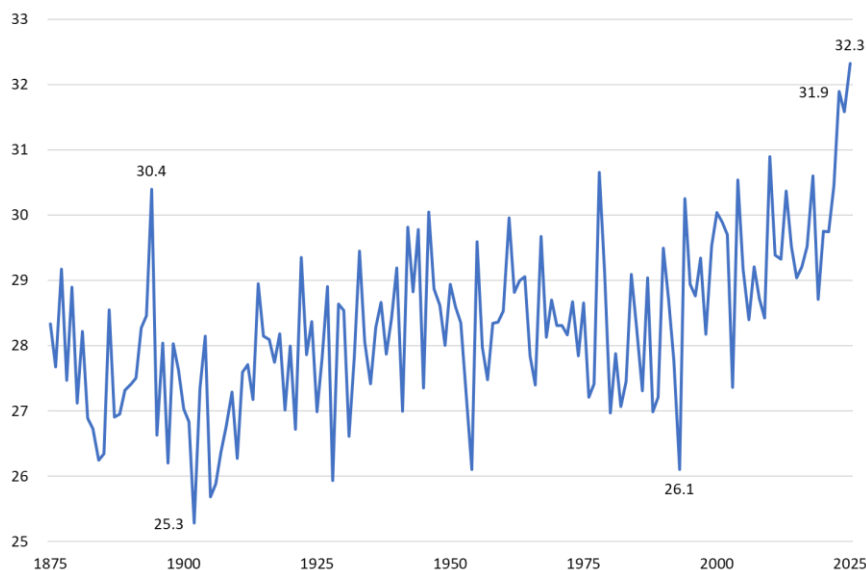
研究員の眼

データで見る今年の夏の暑さ ～東京は偏差値で言えば 80 台～

金融研究部 客員研究員 小林 正宏
m-kobayashi@nli-research.co.jp

今年の夏は格別に暑かった。気象庁によれば、令和7年夏（6～8月）の記録的な高温について、「日本の夏平均気温偏差は、昨年、一昨年の記録を大幅に上回り、3年連続で最も高い記録となった」「歴代最高気温を観測し、猛暑日や40℃以上の延べ地点数の記録も更新した」等とされている¹。日本全国については1898年から統計があるが、東京については1875年²から150年分のデータがある（図表1）。

図表1 東京の夏（6～8月）の日最高気温の平均値（℃）



（出所）気象庁データをもとにニッセイ基礎研究所が加工作成

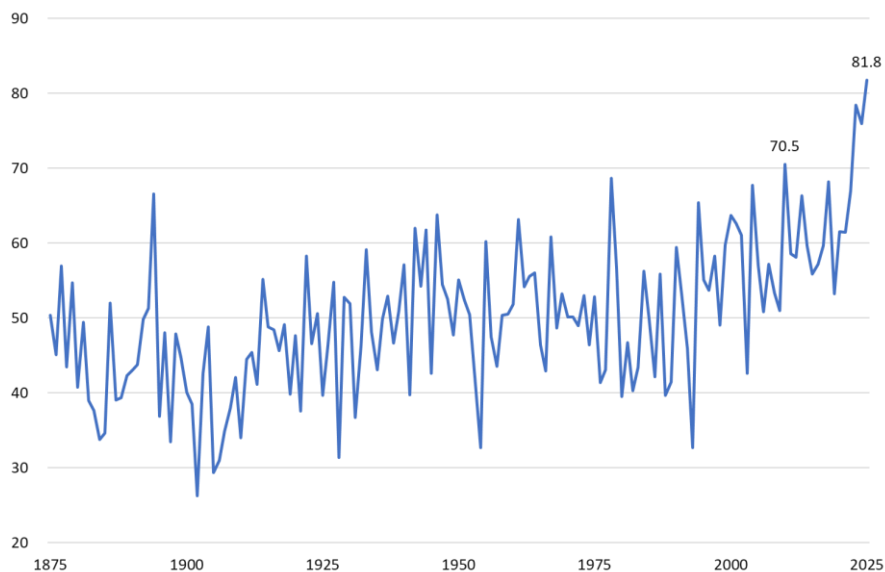
19世紀にも、日清戦争のあった1894年は30.4度と30度を超えていた。冷夏で平成の米騒動のあった1993年は26.1度とこの50年では突出して低かった。新型コロナが5類に移行した2023年から今年にかけてはギアが上がったかのような上昇となったが、この150年の平均値と標準偏差から偏差

¹ 気象庁「令和7年夏の記録的な高温と7月の少雨の特徴およびその要因等について」(令和7年9月5日)
<https://www.jma.go.jp/jma/press/2509/05b/kentoukai20250905.html>

² ただし、1875年は6月10日から。

値換算すると、今年は偏差値 81.8 (3.18 σ) と 80 台を突破した³ (図表 2)。

図表 2 東京の夏（6～8月）の日最高気温の平均値の偏差値



(出所) 気象庁データをもとにニッセイ基礎研究所が加工作成

アメリカのトランプ大統領は国連総会での演説で地球温暖化対策を批判したが、真実がどうであれ、耐え難い暑さであることに変わりはない。折しも、東京のマンション市場も価格高騰が続いている。この際、地方創生のみならず、避暑による生産性向上の観点からも、二拠点居住を真剣に考えるのも一案ではないだろうか。

³ 1875 年から 2023 年までのデータに基づけば 2023 年も偏差値 80.4 となるので史上初ではない。